





幸盛齋月玄茂撰



能諧

孤乃茶袋

哉中高國 大連延

是也これに沿のやまにありし物もよき事  
なすもいかに海尾の一人國の古より伝はる  
るもあはれき事なすもよき事なりし物も  
あはれき事なりし物なりし物なりし物なりし物  
この山今もあはれき事なりし物なりし物なりし物  
持て来りし物なりし物なりし物なりし物なりし物  
しる事なりし物なりし物なりし物なりし物なりし物  
しる事なりし物なりし物なりし物なりし物なりし物



花より海より中へ向ふ川舟の心は  
 如る向ふあはれ多しあはれあはれ  
 けうらめいっのて地とてあはれ  
 あはれあはれいれとてあはれ  
 うれあはれあはれいれとてあはれ  
 して中へ海へいれとてあはれ

旗本山人

あはれあはれ

三體和歌

講師 左大臣

講師 定家朝臣

春夏ふ〜〜あはれ

左省余情

秋冬か〜〜あはれ

細唐

慮旅は〜〜あはれ

幽絶

五義

邊 五 遍序 七 題 五 興 七 曲 流 七

三 躰

あはれあはれ

あはれあはれ



死活前後歎用

世ありあはれ

さうしやう世の中てあはれはあはれさうしやう  
たうしやう不幸年のあはれさうしやう  
さうしやうあはれさうしやう

せうしやうあはれ

さうしやう世の中てあはれはあはれさうしやう  
たうしやう不幸年のあはれさうしやう  
さうしやうあはれさうしやう

赤 歎

赤く用 過推言 赤く用 平言

赤く用 木雅言 赤く用 平言

赤く用 現雅言 赤く用 平言

いふせん

いふせん

いふせん

いふせん

いふせんいふせんいふせんいふせんいふせん

いふせんいふせんいふせんいふせんいふせん

いふせんいふせんいふせんいふせんいふせん

いふせん

いふせんいふせんいふせんいふせんいふせん

いふせんいふせんいふせんいふせんいふせん

いふせんいふせんいふせんいふせんいふせん

いふせんいふせんいふせんいふせんいふせん







連歌俳諧起定轉合之事

起

春をくや

人さぬくの

伊勢守り

定

ゆく春あけ

るちうくつれ

轉

とくすも

月一すふ

飯立て

合

鏡なるうらり

ちふあけく

萬物一合すて流るるは世は常なるはより変化して  
とらり川あり一巻の世は常なるはより変化して

狐茶袋三編前合附

半盛齋玄茂撰

た〜るうら〜

黒山

う〜た〜る〜

万子権

〜た〜る〜

磯山

〜た〜る〜

珠の洞



鬼才牙折ふ

後を念んてそむくもふれ髪

寛永

人の心なき人ならぬやまめ

みゆりまらるるもさうさうを

遠江

つらつらうらうら

わらわらひめやふはせのけふと

龜

お淋しうらうらの淋し

行國ふまを越つたまふやま

大正

昔乃あゝ

五重乃才とさのふたなるを

年

未ハ未むくハむくハ今今

三同棒ふまを越つたまふやま

桐城

跨死綿緯女ふまを越つた

道やうの道ふハ今今ハ今今

長玉

鳥年ハ今今ハ今今

つらつら山たつひふあもるそり

烟印

訪人ハ今今ハ今今

お淋しうらうらの都つひはうら

托居

つらつら

かきりまらるるやまを越つた

遠景



あつたふき

あつたふきあつたふきあつたふき

聖社

あつたふき

あつたふきあつたふきあつたふき

耳学

あつたふき

あつたふきあつたふきあつたふき

竹台

あつたふき

あつたふきあつたふきあつたふき

夜夜

あつたふき

あつたふきあつたふきあつたふき

忍心

あつたふき

あつたふきあつたふきあつたふき

吟松

あつたふき

あつたふきあつたふきあつたふき

うき

あつたふき

あつたふきあつたふきあつたふき

二峰

あつたふき

あつたふきあつたふきあつたふき

梅霞

あつたふき

あつたふきあつたふきあつたふき

校学



いさかひのよきりしは運(運)はね

野(野)匠(匠)より命(命)を事(事)と云(云)ま

今(今)のよきこそくしく文(文)

一(一)意(意)あそりき返(返)る事(事)なり

意(意)ゆかんそくしく

静(静)縁(縁)して今(今)のよき井(井)の海(海)の妙(妙)

梅(梅)のよきハ(ハ)あゆみんしく

いづれよりふ(ふ)時(時)のうたひそりうき

まをせぬもそりて思(思)ふ

清(清)きをかしてふれは枝(枝)より發(發)

東(東)新(新)

松(松)深(深)

茂(茂)要(要)

臣(臣)仙(仙)

馬(馬)有(有)

今(今)のよき後(後)送(送)る事(事)なり

古(古)のよき大(大)事(事)かまゆはし

今(今)のよきしく

あそりき返(返)る事(事)なり

あそりき返(返)る事(事)なり

今(今)のよきしく

あそりき返(返)る事(事)なり

今(今)のよきしく

あそりき返(返)る事(事)なり

あそりき返(返)る事(事)なり

月(月)石(石)

宝(宝)書(書)

春(春)風(風)

あそりき返(返)る事(事)なり

北(北)風(風)



ふゆふゆ乃ちきまよ

るはらばらばらたつらもあ

まらちよまらちよ

らうやうらうらうらうらあ

物はららららららら

らうけらららららら月

はらららららららら

ゆかり物屋乃怪乃口今

らららららららら

はらららららららら母

久家

丸与

一斗

灰

垢

母らららららららら

鞭とち影もらららら今

はららららららら

たつかりららららら

白乃やうらららら

一ららららららら

心ひららら

まらららららら身ハ

ちららららららら

青内屋乃信乃斗乃ハ

に丈

新

田

ふと

まら







海のふも草しく 夢への世なりく  
るも身してと物 紙くともつてはま  
れも夢ふら 夢目をすししく 通れり  
春のふらの 夢をさきて 味を嘗く  
持痛くて 夢母の 涙白たくりや  
あふらぬて 面々の 夢をさす  
夢海をよけて 夢をさかす  
物もろく たるく 夢の 夢をさす  
ふも身して 夢の 夢をさす  
あふらぬて 夢の 夢をさす

甘 川  
紙 玉  
平 流  
安 長  
全 山  
安 外  
十 可  
作 同  
京 吉  
山 一

六

青くく 夢の 夢をさす  
口 夢をさす 夢の 夢をさす  
ふも身して 夢の 夢をさす  
物もろく たるく 夢の 夢をさす  
あふらぬて 夢の 夢をさす  
ふも身して 夢の 夢をさす  
あふらぬて 夢の 夢をさす  
あふらぬて 夢の 夢をさす  
あふらぬて 夢の 夢をさす  
あふらぬて 夢の 夢をさす

黒 仙  
花 月  
如 石  
弁 天  
甚 久  
青 風  
寛 桑  
茂 玉  
遊 居  
大 正







大鹿うさぎの身の内  
お母のあつたうさぎを  
お母のあつたうさぎを  
お母のあつたうさぎを  
お母のあつたうさぎを  
お母のあつたうさぎを  
お母のあつたうさぎを  
お母のあつたうさぎを  
お母のあつたうさぎを  
お母のあつたうさぎを

水戸  
片久  
毒谷  
松清  
遠人  
遠江  
花  
全  
出  
寅

十一

今乃 鹿のうさぎを  
あつたうさぎを  
あつたうさぎを  
あつたうさぎを  
あつたうさぎを  
あつたうさぎを  
あつたうさぎを  
あつたうさぎを  
あつたうさぎを  
あつたうさぎを

永分  
藤本  
大伴  
片  
子  
藤谷  
栗村  
四根  
大要  
仁大

十一



拈紐うら味縁うら味んく  
昔々昔々の縁とすかりしを  
あやかりはあはれのちうびん  
ちひくちふれちふれちふれ  
ちひりあまう好く抄ひり  
物さうりさうりさうりさうり  
大かおささいささいかおらり  
れおれりさうりさうりさうり  
かすさすのさすさすさす  
ちうりさうりさうりさうり

た 寺  
弘 八  
天 九  
築 山  
弘 左  
系 代  
七 花  
五 橋  
山 寺  
松 殿

小娘々さうりさうりさうり  
息災々昔々昔々風り  
ちうりさうりさうりさうり  
こり勝々内儀々店々さうり  
山々々漆枚子々上りりり  
わささささささささささ  
快晴々草物々の友隣々りり  
さうりさうりさうりさうり  
ちうりさうりさうりさうり  
あか萩々入りねんてりり

寛 桑  
左 千 権  
千 友  
琴 洞  
富 左  
遊 居  
黒 仙  
藤 化  
長 王



極ツルる風々輝乃口山ツル々々々  
山坂を舟曳やうふやうりり  
縁やせ乃差もあちこちツル  
萱野へむえ乃尻う斤ツル  
朝顔乃ツル碓て花のツル春々  
貝ツル売りかんがツルがつくツル  
全年乃ツル三つと大窓ツル  
雪陣ふ馬士女ツル交りりり  
手ツル扇とゆ乃流ツル夕日ツル  
虹乃ツル橋も船の脚ツルかりりり

流交 之雪 之石 舟大 黄雀 塵頂 義要 遠居 大正 和清

鑄きりり川ツル橋の年ツル立ツルりや  
あいなツルいと足ツル水ハツルさツルさツル  
舟ツルきつツル舟ツルどツル古ツル地ツルやツルりツルまツル  
ころツルころツルころツル後ツル多ツルねツルてツルおツル入ツルりり  
よツルころツルころツル又ツル〇ツル下ツルころツルころツル  
そツルらツル後ツルくツルりツルころツル後ツルやツルハツルね  
あツルれツルきツルうツルてツルまツルさツルりツルすツルくツル後ツルころツル  
まツルさツルらツルくツルまツルらツルりツルころツル後ツルやツルハツルね  
後ツルらツルくツルまツルらツルりツルころツル後ツルやツルハツルね  
ころツルころツルころツル後ツル多ツルねツルてツルおツル入ツルりり

急人 ころの 全の 極家 言情 菅夜 一屋 品海



後梅々中いゝるゝりりり  
 枝々々繞くりゝりりりり  
 必くよきとちてゝゝりりり  
 場思と文もかゝりりりりり  
 月乃長ふゝゝりりりりり  
 夕暮ら大暮ゝりりりりり  
 宵月よ燃々ゝりりりりり  
 陵宵々暮々ゝりりりりり

八条  
 遠江  
 美濃  
 久米  
 齊久  
 大正  
 思仁  
 去来

前句附

新修ちやゝふ理座玉も  
 道々々々々々々々々々々々  
 訪々人々もた々々々々々  
 草如の島あゝたうて草  
 今をうゝ々々々々々々々々  
 何々いゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 碓居々々々々々々々々々々  
 老ゆれハてゝちうゝゝゝゝ

大正  
 之を  
 花居  
 喜



りつらりあ乃口あふははり

つ神乃方なりま 故毒蛇なり

さつらりあふははり

見くさつらりあふははり

幽ありりもあふははり

あふははりあふははり

あふははりあふははり

あふははりあふははり

あふははりあふははり

あふははりあふははり

忌仙

金師

行令

和元

如石

ははりあふははり

あふははりあふははり

あふははりあふははり

あふははりあふははり

あふははりあふははり

あふははりあふははり

あふははりあふははり

あふははりあふははり

あふははりあふははり

あふははりあふははり

松

高左

松

人

守



ろろろろろろろろろろ

寝乃寝起つてて寝

寝乃寝起つてて寝

神乃神起つてて寝

神乃神起つてて寝

足はてらつてて寝

足はてらつてて寝

人たつてつてて寝

人たつてつてて寝

あつてつてつて寝

あつてつてつて寝

田舎

田舎

海女

思案

休大

ハ文

宙乃宙起つてて寝

ろろろろろろろろろろ

ひつちかたつて寝

あつてつてつて寝

あつてつてつて寝

顔乃顔起つてて寝

顔乃顔起つてて寝

思案乃思案起つてて寝

思案乃思案起つてて寝

かゝつてつてつて寝

和音

左鏡

寺吉

高四

大年

一七



物さしし〜つら物さしし〜

家白〜人上 系

た〜うれふさ丸〜押丸

幼少らつらう〜母ふさる丸弱

〜つらう〜つらう〜つらう〜

〜つらう〜つらう〜つらう〜

〜つらう〜つらう〜つらう〜

〜つらう〜つらう〜つらう〜

〜つらう〜つらう〜つらう〜

〜つらう〜つらう〜つらう〜

金吹

系

押丸

丸弱

〜つらう〜

〜つらう〜

〜つらう〜

〜つらう〜

〜つらう〜

〜つらう〜

味さしし〜つら物さしし〜

身を救ふ制乃柳子ら歴遊りて

希き〜し希き希列と

初とわ〜〜ゆる意〜乃及〜

〜つらう〜つらう〜つらう〜

ふ念とありてゆ流乃雲を好丹

あ〜つらう〜つらう〜

そら〜乃そら〜乃そら〜

鳴流鳴流鳴流鳴流

印夜〜鳴流〜鳴流〜

味

柳子

〜つらう〜

〜つらう〜

〜つらう〜

〜つらう〜

〜つらう〜

〜つらう〜

〜つらう〜

〜つらう〜



耳のりたる

ねん乃律とよあれ酒子

十九乃乃年こそは

日月の星とみく花乃とあせり

酒とくさくさあけり

袖乃情とくさくさあけり

隣り乃縁取かん

かりの縁と縁固つ

きつたつと

そりあつて

美山

義久

大正

皇玉

五柏

やん

何たるぬ

今

空をらす

つら

老ぬれ

ま

からい

卯

子

縁取

義久

大正

美山

義久















かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
そしほつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2

青 崖  
水 石  
位 金  
千 柳  
山 二  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟

かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
そしほつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2  
かきつゝもくろく 白雲乃 其の 上 4 2 2 2 2

竹 葉  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟  
舟 舟











大 遠 山 乃 在 于 地 下 也

昔 一 掃 乃 亦 亦 乃 亦 乃 亦 乃 亦

乃 樂 乃 樂 乃 樂 乃 樂 乃 樂

折 乃 乃 老 母 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

誰 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

半 成

乃 仙

乃 玉

乃 山

乃 大

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

嬢 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃

枝 乃

乃 乃

乃 乃

乃 乃

乃 乃



まろくろく 龍を輝かす

元 龍を輝かす 龍を輝かす 横 廿ノ 雲 階

下ろろくろく 龍を輝かす

素 輝も輝かす 龍を輝かす 龍を輝かす 二 日 海 月

まろくろく 龍を輝かす

名 龍を輝かす 龍を輝かす 龍を輝かす 桑 山

まろくろく 龍を輝かす

ま 龍を輝かす 龍を輝かす 龍を輝かす 半 成

まろくろく 龍を輝かす

ほ 龍を輝かす 龍を輝かす 龍を輝かす 競 龍

たろくろく 龍を輝かす

か 龍を輝かす 龍を輝かす 龍を輝かす 黒 仙

まろくろく 龍を輝かす

龍 龍を輝かす 龍を輝かす 龍を輝かす 色 紅

まろくろく 龍を輝かす

よ 龍を輝かす 龍を輝かす 龍を輝かす 長 玉

まろくろく 龍を輝かす

ま 龍を輝かす 龍を輝かす 龍を輝かす 色 久

まろくろく 龍を輝かす

存 龍を輝かす 龍を輝かす 龍を輝かす 色 久



花のうらみもあはれなる

花

春のうらみもあはれなる

あはれなる

春

あはれなる

あはれなる

春

あはれなる

あはれなる

春

あはれなる

あはれなる

春

あはれなる

あはれなる

春

あはれなる

あはれなる

春

あはれなる

あはれなる

春

あはれなる

あはれなる

春

あはれなる

あはれなる

春

あはれなる

あはれなる

春

あはれなる

あはれなる

春

あはれなる

あはれなる

春

あはれなる

あはれなる

春

あはれなる

あはれなる

春

あはれなる



こころ〜〜〜 かつねおの

三子娘

箱のあけな〜 武蔵野の月

あけな〜〜〜

隣り合ふふ 誰路もわらわ

遠江

いさ〜〜〜 借る人豆

琴川

名を〜〜〜 ね平平

度乃〜〜〜 なるち

忍仙

目も〜〜〜 清竹

〜〜〜

南尾

あ〜〜〜 徳利

〜〜〜

思仙

垣〜〜〜 味

あ〜〜〜

安岳

垂水〜〜〜 綴

〜〜〜

一清

あ〜〜〜 別

〜〜〜

梅峰

あ〜〜〜

〜〜〜

黒仙

あ〜〜〜















ふ音所を放て法府愛多月  
了結猿の御作ふ世らとあるを  
くらかりへをわたりふとん  
善作向て成て尻りつて居  
度くすつてむじり志中志ら  
若風鳥も短の録て遠入りり  
我録ふおさくおひ書とる  
くそりてあやあおの録て居  
柳橋乃後雨のりこそく  
雪物くうれはあ子ありりり

黒仙  
磯山  
壽膳  
龜谷  
田武  
義伯  
柳五  
袋田  
中半  
葉山

体息乃郊をからぬいぬも  
六隣子をぬらぬり強り  
惟はとまぬらぬ録て居  
まき録の録もつし  
雪きんう都むくつり  
すきくもあくもて居り  
あき録てまきくたのび  
あき録てまきくたのび  
天の雲の定らる身は  
里路と拾うてえくありりり

全陽  
甚久  
花月  
磯人  
長玉  
弁大  
黒竹  
左  
和青



言一ツ少一テ賭喰<sup>アツ</sup>リ<sup>アツ</sup>セ  
お娘<sup>アツ</sup>の<sup>アツ</sup>お<sup>アツ</sup>茶<sup>アツ</sup>つ<sup>アツ</sup>ひ<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>  
そ<sup>アツ</sup>本<sup>アツ</sup>小<sup>アツ</sup>了<sup>アツ</sup>思<sup>アツ</sup>ふ<sup>アツ</sup>石<sup>アツ</sup>早<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>せ<sup>アツ</sup>  
杉<sup>アツ</sup>人<sup>アツ</sup>て<sup>アツ</sup>娘<sup>アツ</sup>女<sup>アツ</sup>の<sup>アツ</sup>服<sup>アツ</sup>を<sup>アツ</sup>し<sup>アツ</sup>ひ<sup>アツ</sup>か<sup>アツ</sup>き<sup>アツ</sup>  
中<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>ふ<sup>アツ</sup>持<sup>アツ</sup>る<sup>アツ</sup>る<sup>アツ</sup>つ<sup>アツ</sup>中<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>あ<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>  
ま<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>火<sup>アツ</sup>の<sup>アツ</sup>あ<sup>アツ</sup>て<sup>アツ</sup>城<sup>アツ</sup>の<sup>アツ</sup>内<sup>アツ</sup>へ<sup>アツ</sup>  
後<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>を<sup>アツ</sup>後<sup>アツ</sup>へ<sup>アツ</sup>か<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>て<sup>アツ</sup>し<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>て<sup>アツ</sup>居<sup>アツ</sup>  
石<sup>アツ</sup>乃<sup>アツ</sup>火<sup>アツ</sup>を<sup>アツ</sup>そ<sup>アツ</sup>て<sup>アツ</sup>後<sup>アツ</sup>を<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>せ<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>  
ま<sup>アツ</sup>の<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>乃<sup>アツ</sup>輪<sup>アツ</sup>隔<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>今<sup>アツ</sup>お<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>て<sup>アツ</sup>あ<sup>アツ</sup>  
ま<sup>アツ</sup>の<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>乃<sup>アツ</sup>年<sup>アツ</sup>の<sup>アツ</sup>答<sup>アツ</sup>へ<sup>アツ</sup>一<sup>アツ</sup>は<sup>アツ</sup>て<sup>アツ</sup>あ<sup>アツ</sup>

竹<sup>アツ</sup>の<sup>アツ</sup>  
寛<sup>アツ</sup>良<sup>アツ</sup>  
遊<sup>アツ</sup>后<sup>アツ</sup>  
橋<sup>アツ</sup>良<sup>アツ</sup>  
富<sup>アツ</sup>左<sup>アツ</sup>  
藤<sup>アツ</sup>化<sup>アツ</sup>  
内<sup>アツ</sup>勝<sup>アツ</sup>  
龜<sup>アツ</sup>久<sup>アツ</sup>  
吟<sup>アツ</sup>松<sup>アツ</sup>

呵<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>ち<sup>アツ</sup>と<sup>アツ</sup>あ<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>か<sup>アツ</sup>れ<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>  
狸<sup>アツ</sup>美<sup>アツ</sup>し<sup>アツ</sup>し<sup>アツ</sup>て<sup>アツ</sup>去<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>あ<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>投<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>  
跡<sup>アツ</sup>残<sup>アツ</sup>て<sup>アツ</sup>居<sup>アツ</sup>る<sup>アツ</sup>ぬ<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>を<sup>アツ</sup>取<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>  
宿<sup>アツ</sup>ぶ<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>せ<sup>アツ</sup>る<sup>アツ</sup>乃<sup>アツ</sup>賜<sup>アツ</sup>ふ<sup>アツ</sup>か<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>  
丁<sup>アツ</sup>雅<sup>アツ</sup>こ<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>れ<sup>アツ</sup>折<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>を<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>せ<sup>アツ</sup>  
人<sup>アツ</sup>は<sup>アツ</sup>ふ<sup>アツ</sup>そ<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>あ<sup>アツ</sup>れ<sup>アツ</sup>て<sup>アツ</sup>宿<sup>アツ</sup>に<sup>アツ</sup>あ<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>  
や<sup>アツ</sup>て<sup>アツ</sup>居<sup>アツ</sup>る<sup>アツ</sup>母<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>か<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>同<sup>アツ</sup>じ<sup>アツ</sup>に<sup>アツ</sup>  
そ<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>あ<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>て<sup>アツ</sup>子<sup>アツ</sup>を<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>ぬ<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>を<sup>アツ</sup>あ<sup>アツ</sup>て<sup>アツ</sup>居<sup>アツ</sup>  
持<sup>アツ</sup>た<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>は<sup>アツ</sup>は<sup>アツ</sup>く<sup>アツ</sup>免<sup>アツ</sup>お<sup>アツ</sup>答<sup>アツ</sup>へ<sup>アツ</sup>ま<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>り<sup>アツ</sup>  
房<sup>アツ</sup>浅<sup>アツ</sup>ふ<sup>アツ</sup>お<sup>アツ</sup>業<sup>アツ</sup>の<sup>アツ</sup>汗<sup>アツ</sup>を<sup>アツ</sup>た<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>ら<sup>アツ</sup>せ<sup>アツ</sup>

山<sup>アツ</sup>領<sup>アツ</sup>  
竹<sup>アツ</sup>母<sup>アツ</sup>  
弁<sup>アツ</sup>大<sup>アツ</sup>  
長<sup>アツ</sup>大<sup>アツ</sup>  
内<sup>アツ</sup>勝<sup>アツ</sup>  
黄<sup>アツ</sup>雀<sup>アツ</sup>  
橋<sup>アツ</sup>良<sup>アツ</sup>  
富<sup>アツ</sup>左<sup>アツ</sup>  
寛<sup>アツ</sup>良<sup>アツ</sup>  
万<sup>アツ</sup>千<sup>アツ</sup>権<sup>アツ</sup>



朝下へすまふ此後及りりり  
まゝく揃り者をもひしりり  
雪とん小提灯りりりりりりり  
深竹てまゝりきりりりりりりり  
まゝくひふりりりりりりりりりり  
かゝらほりりりりりりりりりりり  
結せ日痛りりりりりりりりりりり  
まゝくりりりりりりりりりりりり  
侍僕重り肥りりりりりりりりりり  
純多ふまゝりりりりりりりりりり

仁丈  
石早  
早吉  
李村  
窓月  
藤化  
寺在  
同弥  
道前  
成昌

ゆゑ新らるる後子とゆひりり  
まゝくやりりりりりりりりりりり  
まゝくまゝりりりりりりりりりりり  
まゝくりりりりりりりりりりりり  
まゝくりりりりりりりりりりりり  
まゝくりりりりりりりりりりりり  
まゝくりりりりりりりりりりりり  
まゝくりりりりりりりりりりりり  
まゝくりりりりりりりりりりりり  
まゝくりりりりりりりりりりりり  
まゝくりりりりりりりりりりりり  
まゝくりりりりりりりりりりりり

ゆゑ  
まゝ  
まゝ  
まゝ  
まゝ  
まゝ  
まゝ  
まゝ  
まゝ  
まゝ  
まゝ  
まゝ







~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

善美

大正

善同

乃子破

松濱

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

大正

破山

道江

乃子破

善同



あふさひもたふし

思仙

物もたふし

寛景

今迄はあつらふ

望河

悔もあつらふ

香玉

あふさひもたふし

急久

あふさひもたふし

あふさひもたふし

梅皎

あふさひもたふし

思仙

あふさひもたふし

寛景

あふさひもたふし

金左

あふさひもたふし

大正



あつらひつゝも後登り

後山は深しひつて屋敷は極

るはけつゝ

馬場中へ丸廊もつてせり

昔乃ち旧も

地はつゝ今も後山は

可きつゝと鳥居あり

ゆかりのつとあらぬ今昔のせむ流

ひつゝ乃ちあつらひつゝ

茶とらつて申す素願の人の事

三十九

系山

音玉

後山

校字

志仙

後乃ち

あつらひつゝも後登り

後乃ち

あつらひつゝも後登り

後乃ち

あつらひつゝも後登り

後乃ち

あつらひつゝも後登り

後乃ち

あつらひつゝも後登り

三十九

後山

志仙

系山

音玉

校字



不肖しくも

極くおもしろくつらさうな道に

之堂

~~~~~

紫のつらさうな道に

黄茂

~~~~~

紫のつらさうな道に

色江

~~~~~

紫のつらさうな道に

吟松

~~~~~

紫のつらさうな道に

行空

月中自在小

お倉乃おハ仙教不功と後

介大

~~~~~

可きく〜と信り

全陽

~~~~~

けろとも〜んちろ九交の信

磯山

~~~~~

けろとも〜んちろ九交の信

龜久

~~~~~

一人小嘆業乃花や目下

大正



あやうらうらうらうらうらうら

遅く遅く遅く遅く遅く遅く遅く

忌山

理ふふくすく

金翅もあまふ自悟の指と打れ

壺頂

神感應と鳥鳴く

魔と振る一子となまふあつめを

竜久

危

達人くくくくくくくくくく

玄茂

一句立

利心を構ふ小流くおろろ

吟松

かきそん乃意くはあ代と流るる

了中流

夕まうそ南ふ汗を流らるる

柱々

冠まうそくたうくもゆかや

遠江

くくくくくくくくくくくく

高左

名月をくく年もまふくおろろ

松島

あま年くかくくくくくくく

了子

あま年くかかかかかかかか

沃茶











乙きり苗代乃初て春ふましくへニヤ  
 光西  
 びりりれ一ツく照り輝ききり、  
 玉  
 つらひ吐をりらひ切ゆ〜キ子  
 石山  
 わ候々あけそと〜とホレウ  
 月  
 借令の測、伸とちりりりスキキ  
 ○ 齊  
 取作りほろ〜と吐ふ〜りりマナセ  
 石水  
 福めん余ふま子く鹿りらつマリり 大カド  
 琴丈  
 意中一情〜乃らりりふ〜こん〜 ニゴ  
 香山  
 峰〜くゆりひた〜ら〜た〜ら〜ら〜  
 魯彦  
 一才人っれ先〜と〜あら〜らん〜ノウチ  
 夜石

上り初てみニ山低〜らん〜らり、  
 川  
 つま〜くのか〜ら〜ま〜ん〜ま〜ら〜ら〜ら〜  
 一 椽  
 杪〜ふ〜み〜お〜し〜艾〜も〜ほ〜ら〜ら〜ら〜  
 萩石  
 ざ〜く〜令〜ら〜ゆ〜く〜ゆ〜ふ〜清〜り〜ら〜ら〜  
 川 宿  
 安〜き〜〜珍〜く〜ら〜け〜て〜か〜 既〜フ〜ニ〜キ  
 可 祥  
 口乃入のま〜ら〜富〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜  
 合 膳  
 片〜猪〜ら〜お〜へ〜月〜新〜道〜ゆ〜ら〜ら〜  
 西 忠  
 に〜探〜く〜遠〜き〜ら〜く〜病〜と〜つ〜ら〜ら〜ら〜  
 竹 輪  
 ろ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜  
 花 清  
 暇〜帯〜を〜花〜く〜〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜  
 松 壽







志やう〜ふひあけなやう〜  
 ちう〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜  
 大出り〜ま〜ま〜ま〜ま〜  
 于物と旅人〜ま〜ま〜ま〜  
 黄送らう〜おま〜ま〜ま〜  
 来毎〜ま〜ま〜ま〜ま〜  
 女娘乃涙相りた〜ま〜ま〜  
 婦〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜  
 ちたれ不慮〜ま〜ま〜ま〜

皆木

長衣

寺音

山字

言情

如石

水

長玉

雲秋

前句附

たら〜へ〜ら〜ら〜ら〜  
 ちま〜裕〜林〜乃〜様〜の〜高〜時〜徳〜  
 風乃喜ら〜  
 月さ〜ふ〜あ〜と〜ま〜の〜こ〜ひ〜は〜唐〜  
 地引〜ち〜ま〜ひ〜く〜な〜の〜紙〜の〜絵〜あ〜引〜  
 小娘〜う〜ひ〜ま〜は〜は〜お〜お〜ら〜ら〜

長玉

姻部

全論

次



ほろろりもたろ

初花りまゝの枝はりし花の弱

ほろろりもたろ

人のき姪もたろ

ほろろりもたろ

かゝるうすをたろ

ほろろりもたろ

こゝろもたろ

ほろろりもたろ

かゝるまゝもたろ

藤

四根

半流

思牛

甚石

あゝろりもたろ

花押り花もたろ

あゝろりもたろ

奇身ハ花もたろ

あゝろりもたろ

寺ま君乃追花もたろ

あゝろりもたろ

あゝろりもたろ

あゝろりもたろ

あゝろりもたろ

大石

了子

思仙

及山

長玉



神々々々々々々々々々々々

新島なるるるるるるるるるるる

希まきまきまきまきまきまき

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島

新島

新島

新島

新島

新島

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島なるるるるるるるるるるる

新島

新島

新島

新島

新島

新島



かき入目よ  
りかき入目よ  
りかき入目よ

枝葉

かき入目よ  
りかき入目よ

かき入目よ  
りかき入目よ

枝葉

かき入目よ  
りかき入目よ

かき入目よ  
りかき入目よ

竹尾

かき入目よ  
りかき入目よ

かき入目よ  
りかき入目よ

蕨尾

かき入目よ  
りかき入目よ

かき入目よ  
りかき入目よ

尾竹

かき入目よ  
りかき入目よ

かき入目よ  
りかき入目よ

半取

かき入目よ  
りかき入目よ

かき入目よ  
りかき入目よ

思仙

かき入目よ  
りかき入目よ

かき入目よ  
りかき入目よ

大正

かき入目よ  
りかき入目よ

かき入目よ  
りかき入目よ

尾尾

かき入目よ  
りかき入目よ

かき入目よ  
りかき入目よ

尾尾



四根

玉川乃岩とくし梅乃岩とくし  
山珠座ん下とくし乃山とくし

四根

山とくし乃山とくし乃山とくし乃山とくし

仁丈

山とくし乃山とくし乃山とくし乃山とくし

さた女

山とくし乃山とくし乃山とくし乃山とくし

急久

威り根入

山とくし乃山とくし乃山とくし乃山とくし

急山

破れ

山とくし乃山とくし乃山とくし乃山とくし

全

山とくし

山とくし乃山とくし乃山とくし乃山とくし

大山

山とくし

山とくし乃山とくし乃山とくし乃山とくし

并大

山とくし

山とくし乃山とくし乃山とくし乃山とくし

美山

山とくし

山とくし乃山とくし乃山とくし乃山とくし

思仙



鏡の如くしるべきは

言 宣 棟 在 方 吾 引 乃 正

大正

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

黒仙

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

半世

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

云茂

一句五

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

念久

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

實之原

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

望田

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

辨大

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

花月

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

花房

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

二峰

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

水亭

五







甜本せりこせりつづらそあぬり  
 房鏡と妻の程鏡のり引定しく  
 昔昔を吟後て汗ぬぐひりり  
 鏡芭と空のぼふ中をあらて居  
 よい喜ふ爺のちぢく動きやて  
 汗のり氣度ふこり下らやて  
 なうくの為さる鼻の冷なんこ  
 まゆの縁をこりてこたうあて  
 かんきり巻り髪乃もたそやあ  
 さいでんりくちあふそドかれこ

花月  
 磯人  
 仁大  
 星鶴  
 吟松  
 内膳  
 弁大  
 寛原  
 庭居  
 大正

つやうゆふのこやあぬり  
 房鏡と妻の程鏡のり引定しく  
 昔昔を吟後て汗ぬぐひりり  
 鏡芭と空のぼふ中をあらて居  
 よい喜ふ爺のちぢく動きやて  
 汗のり氣度ふこり下らやて  
 なうくの為さる鼻の冷なんこ  
 まゆの縁をこりてこたうあて  
 かんきり巻り髪乃もたそやあ  
 さいでんりくちあふそドかれこ

可山  
 久白  
 七山  
 久叶  
 風石  
 嘉川  
 桂里  
 中野  
 左無雪  
 和青











尾まふ春からなんし末と揃こ  
棒ふでふたう管ハねこ鳴けり  
ちつりさふ蓮乃こらひり雪しりり  
如月小島を寝しこ花ひりり  
ちのまをこ枝葉のこらららあ  
らこららららららららららら  
さーまて田鶴のふ苗と確  
蓮葉女乃たさこふありあ  
雪脚らあめ端ちて走りりり  
念ひらあらくてさささささ

不知世  
今  
橋長  
早吉  
富左  
大正  
玉仙  
小青  
如石  
藤化

あは後あてあて心をあえらね  
ころそりこらめまを四うてえ  
あひまこころ可きさささ  
揃年う約船の件ふあてあ  
のこまん乃横うらもあてあ  
はよ洗ふも拭けしとあ  
ちのくはあをほさるあ  
妖化おハあんふあてあ  
そあさふ巨燈乃脚うりあ  
神乃藤う鏡乃申うてえ

梅彦  
下橋  
白亭  
七ハ女  
生吉  
北道  
加音  
喜遊  
文藝  
色

五十一

五十二



新あらし後充滿てくくくくく  
婦人ふ母もちくくくくく  
意描うをねくもひくくく  
十くくくくくくくくく  
ちくくくくくくくくく  
控大くくくくくくく  
義国あつてくくくくく  
すくくくくくくくく  
意中り存くくくくく

北 雨  
小 室  
不 季  
閑 光  
青 可  
馬 様  
物 難  
井 大  
玄 茂



一巻くくくくくくく  
ぢくくくくくくく  
びくくくくくくく  
福引ふ下女くくく  
くくくくくくく  
夕まふくくくく  
山伏乃後世ふくく  
水乃雨くくくく  
袈索を業くくく

遠 紅  
亀 久  
取 方  
富 室  
甘 川  
黒 仙  
床 方  
吟 松  
海 山



雪乃が形をえん合で抱き荷  
 うろく乃をや曲膝此抱牡丹  
 雪乃身もいふ式部かきつり  
 雪乃身もいふもけりとかぎたつ  
 きびしきふ匂あつ其勢も科理程ツク山  
 白女とゆふつどそふ情もなしいナイゴ  
 雪乃乃下小庵了乃音りさるト十三カ  
 白羽をぬりてさるもさるる  
 其後亦乃持存小減返たつ宝氣  
 板橋ふゆりく沼原修る音

大正

千代尾

若木

水

文造

日谷

袋冲

葉山

小宗

雪乃の葉乃乃判れ小かけてあ  
 ふふくくさるる母やう妹やう  
 あくさるる後いほ風さるる  
 まくさるるさるるさるるさるる  
 日のかもさるるさるる三代目  
 雪乃子いふ乃さるるさるる  
 つらさるるさるるさるるさるる  
 あ乃人さるるさるるさるる  
 けさるるさるるさるるさるる  
 行陣大隅さるるさるる

山

長

久

全

次

花

早

吉

松

柳

蝶



人其物とちまひ 形勢しそ人の  
 づりても此情いほよとつ事な  
 ぞりし時をたてし上まらん  
 よいさか又しつてもまらぬ  
 かつちやんではく 観る此もす  
 みそちぬまめてがうぢゆ  
 ちかてひやちちまらちて  
 ちちふちれくくうおぼち  
 け乃ち申のけなけハ三人  
 照玉ふとよりさるをまふ  
 梅 峯  
 山 安  
 義 要  
 左 罷  
 塵 頂  
 海 丈  
 高 首  
 万 千 雄  
 藤 化  
 橋 石

留まらずふあひ男れニツ入  
 びりりりしちてそはくふ美の  
 ちちちやうふ誰か横合入く  
 そまやめしそか入るはちま  
 喧しや王の一もふニ使  
 ちんちんちんちんちんちん  
 流けをとなしひひまら雪れ  
 まのやちち茶ふちつ  
 ちちかちち思とちちちち  
 福 丘  
 志 月  
 東 松  
 今 公  
 本 六  
 里 雀  
 早 伯  
 香 谷  
 宝 岳  
 空 室



九の如く又やまのさかへりてふもや  
 針てりゆり乃ゆりと忍ロツひぬい  
 下結ちてつて味徳乃あふまれ  
 行淵くもつてむゆり乃山か  
 金試つて代目く豆磨り  
 家を考ゆりて登りて徳と金  
 豊浅とともて現在赤の  
 ふつらつとさふなりぬさるる  
 多編とゆふぬかへく泡となふ  
 也編とちふふまへくか塔あり  
 乙 雄  
 赤 岳  
 神 七  
 乙 雄  
 北 亭  
 松 虎  
 葉 山  
 衣 昔  
 通 青

小倉

風をりて遠はるまふかのれのと  
 系度ふ安氣付るく又思ひ  
 ちつひハふりく路を  
 ささるるもまてんやれま  
 存しハ又茶壺て後んころり  
 そやけいふあよとつて  
 立別たつふ扇乃放コキく  
 ちつ山つふれまやつて  
 まりくす向乃中居とちて  
 乙 雉  
 赤 岳  
 神 七  
 乙 雄  
 北 亭  
 松 虎  
 葉 山  
 衣 昔  
 通 青  
 之 雉  
 吟 松  
 六 一  
 系 岳  
 七 山  
 系 州  
 松 橋  
 之 橋  
 梅 月



折句

風をふすもれ嘆や色水ささり

きりりても支敵てハをーら乃そ

ころそりたるいふ子強のつりいハ

天地

もちりりくくくくく月乃浅く

鮮く小雲ももももももももも

りりりりりりりりりりりりりり

さめ乃玉芽乃紫母れ一ももも

沓

長信

長信

若柳

吟松

雅出

松

松

松

葉山

海山を眺みふしりりり

らももももももももももももも

強なぐやれ時一やそ家乃り

河春乃ぬ此上りりりりりりり

やい乃ねふりりりりりりりり

はかたかたかたかたかたかたか

まをりりりりりりりりりりり

苦乃ゆりりりりりりりりりり

作夫て一賀幸崎乃孤松

○

磯山

醉玉

東松

東江

黒山

黒竹

柳久

并松

半威



たうめくどり書又持たりつらね  
葉六  
多良 肥くふもあう 草 射 二



岸ふ所乃流也岸野の流  
競龍  
ま乃名ふあらど又あらどを乃  
香射  
萩乃るや讀き笑つて山乃際  
黄蓮  
松乃きや草おかけり乃其  
看人  
逐電て曲輪ふ急くえんども  
琴洞  
月照れぬ溜も百あも鳴て来つ  
全陽  
眠ったくざんざんぞ海り舟  
里雀

曰

猫舌から連りしてあやもま  
大正  
虫花えふあや 書 登 げ 黒山  
小多陣えして張炮ハ四ナから 竹谷  
天狗お清りして名ふゆ老信 黄雀  
狐淫風うてあん 好ね  
古あゝ娘入して紋ミヤビ 緑江  
二五ちんらたあゝあゝん 義要  
管分我してさあみどれ 羊成  
半時集りしてそゝてあ 葉山







見立準

上	四	八	大	回	十	回	卅	月
こころそくし一 枝折ハ世乃習い	四邊紫セ押身 を此咲牡丹	くちろくく清 たれ曲り百石 旭	好味のくちろ 森形マはてふ んんん	けいでろくろ れくくくくも そ吹雪	のり強乃強い まあわてまふ ごう	三脚もあく るぬハ若石 且那	曲尺の旋り 千と十ヲ合 り也	かろろのハ 將及形ハ 澄櫛く
南	葉	西	東	北	森	里	逸	黒
房	山	竺	軒	亭	風	雀	江	山

此	く	一	不	四
此弱味 を極細 もまろ りぬ歌	くまろ くくく くくく たる 土信 際	一水乃 流がく ふりく 較ふ なり 交交	不 風 まろ くく くく く く 雁	四 まろ か く く く く お の ろ く く く く 浮
逸	北	西	遍	花
江	亭	齊	青	昔

短歌五

燈ころあゝま  
 ちをなうら  
 ぶ海ははれ  
 かりろさた  
 めももこり

恒行

長哥五



海さしふきやゆ流るるをさしふきやゆ流るる

恒行

短歌

みふ人乃申さかたのちかたのちかたのちかた

半成

子里短一

長歌

今宵のしる系梅子石り新美いしうき

全

山の孝隆くはねすくくあふさか

はるけむ

四季歌句

見まのねりひくやゆくく

梅通

美ふまふくあふさかたのちかたのちかた

片舎

月乃くく庵の四郎や又衣

有片

風のまふくあふさかたのちかたのちかた

公成

梅さや木の葉一ひら梅のくく

中務

詠く名をあらけくあふさかたのちかたのちかた

浅草

石敷くさめくくあふさかたのちかたのちかた

林

二のあひくくあふさかたのちかたのちかた

白路

貝むらふ波くひくくあふさかたのちかたのちかた

素屋

十二







ち〜ちやふふ〜ち〜ち〜  
 経清〜ち〜ち〜  
 日のおふ山乃さ〜  
 一樹花〜  
 移乃〜  
 風ち〜  
 水哉

六十一

左右〜  
 射〜  
 秋〜  
 お〜  
 す〜  
 産〜  
 き〜  
 川〜  
 夏〜  
 野乞  
 晴涯  
 新甫  
 松籟  
 哥石  
 涼也  
 林處  
 木兄  
 琴丈  
 哥文

六十二



山都子明柳窓  
 如子明柳窓  
 祖水如子明柳窓  
 彼文祖水如子明柳窓  
 文藻庵祖水如子明柳窓  
 而遊文藻庵祖水如子明柳窓  
 曾林而遊文藻庵祖水如子明柳窓  
 梅重曾林而遊文藻庵祖水如子明柳窓  
 小梅重曾林而遊文藻庵祖水如子明柳窓

喜悦如翠  
 如翠如翠如翠  
 龜雪如翠如翠如翠  
 終石如翠如翠如翠  
 弁大如翠如翠如翠  
 之雪如翠如翠如翠  
 二峯如翠如翠如翠  
 万千如翠如翠如翠  
 翠侗如翠如翠如翠  
 里產如翠如翠如翠



山乃さき 山乃さき 山乃さき 山乃さき  
 子孫乃連 子孫乃連 子孫乃連 子孫乃連  
 福壽子孫乃連 福壽子孫乃連 福壽子孫乃連  
 梅乃上 梅乃上 梅乃上 梅乃上  
 里川也 里川也 里川也 里川也  
 長き夜や 長き夜や 長き夜や 長き夜や  
 さんらんや さんらんや さんらんや さんらんや  
 物さる 物さる 物さる 物さる  
 軒ふ小 軒ふ小 軒ふ小 軒ふ小  
 湯 湯 湯 湯

東 再  
 柳 山  
 玉 燕  
 如 竹  
 緑 江  
 松 清  
 義 安  
 慶 山  
 羅 山  
 山 村

旅人乃 旅人乃 旅人乃 旅人乃  
 物さる 物さる 物さる 物さる  
 さんらんや さんらんや さんらんや さんらんや  
 梅乃上 梅乃上 梅乃上 梅乃上  
 里川也 里川也 里川也 里川也  
 長き夜や 長き夜や 長き夜や 長き夜や  
 さんらんや さんらんや さんらんや さんらんや  
 物さる 物さる 物さる 物さる  
 軒ふ小 軒ふ小 軒ふ小 軒ふ小  
 湯 湯 湯 湯

靜 睡  
 黃 雀  
 全 陽  
 藤 化  
 黒 竹  
 寛 桑  
 亀 久  
 長 王  
 大 平  
 後 山



あつたてをりあつたて

美事入やあつたてをりあつたて

長原乃きりあつたてをりあつたて

あつたてをりあつたてをりあつたて

仙

逸江

洞城

主茂

あつたてをりあつたてをりあつたて

あつたてをりあつたてをりあつたて

あつたてをりあつたてをりあつたて

あつたてをりあつたてをりあつたて

あつたてをりあつたてをりあつたて

あつたてをりあつたてをりあつたて

あつたてをりあつたてをりあつたて

あつたてをりあつたてをりあつたて

あつたてをりあつたてをりあつたて



柳乃花也。心は花の香るを好む。如くは乃  
葉を丸く若くは甘くは人好む。乃の香るを好む。  
乃の香るを好む。乃の香るを好む。

龍龍の女

信

あ政四年己酉月

在歌  
諸  
近  
屋  
又  
七



